

JA経営トップの方々は、日ごろから「女性の皆さんのお力添えがなければ、JAの事業は大変です」と言いながら、こと実際の女性参画の話となると、なかなか進まない……。皆さんのJAでは、こんなことはありませんか。

女性参画待ったなし 女性の力や発想に期待

福井県立大学経済学部 北川 太一 教授



今なぜ、女性参画を進め、三冠王をめざすのでしょうか。ここで紹介された三つの事例は、多くの示唆を与えてくれます。

一つは、仲間づくり。とくに、これまでJAにあまり関わってこなかった人へのアプローチが可能になります。

二つは、生活者視点からの活動や事業の見つめ直し。食卓と生産現場がもっと強くつながれば、農業やJAのファンが増えます。

三つは、協同組合らしい、一人ひとりを大切にしたい運営と職場づくり。くらしの課題に直面する女性を役員や管理職等に登用することで、これまで見えにくかったことに光があたり、気づきが生まれます。このことが新しい活動や事業を創り、組織に新しい風を吹き込むでしょう。

JAが企業と同じ土俵に立って競争すればするほど、協同組合らしさが薄れていきます。それが、いわれなきJA批判(協同組合の否定)となって表れることも

あります。

今一度、食の視点から農を応援し、くらしの現場から活動や事業を組み立てることが必要です。

農と食に関心を持つ一人ひとりが、地域のよりどころ(=寄りどころ)である農産物直売所や支店に集い小さな輪ができる。地域の小さな輪が、合併して大きくなったJAのあちこちにできてネットワークとなって重なり合う。

こうした姿こそが、私たちがめざす「食と農を基軸とした地域に根ざした協同組合」です。

女性参画は待ったなしの状況です。女性の力や発想に男性たちも大いに学び、共同参画型のJAづくりに努力しなければなりません。

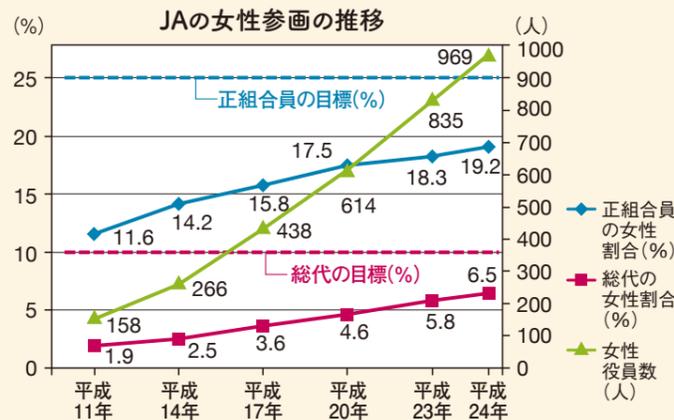
もちろんその鍵を握るのは、経営トップの懐深い姿勢とリーダーシップであるといえます。

第26回JA全国大会決議 JA経営参画目標

正組合員：25%以上、総代：10%以上、理事等：2名以上

JA運営参画の推移

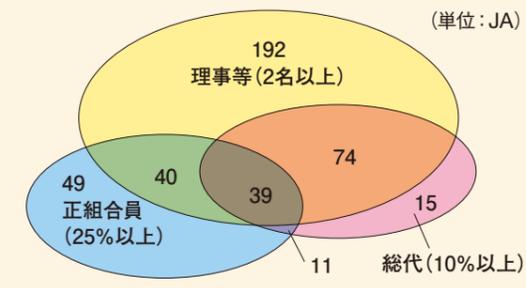
第22回JA全国大会(平成12年)で、JAにおける女性参画の目標を掲げて以来、正組合員、総代、理事等は少しずつではありますが、増加してきました。



注：正組合員・総代についてはJA全中調査、役員については農林水産省「総合農協統計表」、平成23年・24年についてはのみJA全中調査

女性のJA運営参画の達成状況

JA運営参画目標のうち、理事等については、これまで国の政策的後押しもあって、最も進んできました。これからは、基本となる女性の(正)組合員を増やして、その上で総代(正組合員の場合)を増やし、さらに役員登用を進める、という流れを改めて意識すべきです。



資料：JA全中「全JA調査」(正組合員、総代は平成24年4月1日現在)、JA全中「JA女性役員等調査」(理事等は平成24年7月31日現在)
「達成状況」は県によって数値目標は異なるが、「正組合員25%以上、総代10%以上、理事等2名以上」のものをカウント

三冠王JAに見る 女性パワー発揮の秘けつ

～ 組合員・地域住民に支持されるJAづくりをめざして～



すでに女性参画の3つの数値目標(正組合員比率、総代比率、役員数)を達成しているJAでは、実は女性パワーを活用して、組合員や地域住民に支持されるJAづくりを進めています。一步先をいく三冠王JAの取り組みをのぞいてみましょう!

農山漁村男女共同参画推進協議会
全国農業協同組合中央会

トップのリーダーシップのもと、 「地域に愛されるJA」をめざして、 女性パワーを積極的に取り入れ

JAなんすん
【静岡県】

「目標は着実に実践してこそ生きてくる」と語る鈴木組合長。女性役員についても、女性の視点をJA事業に生かす取り組みを実践。JAファンづくりを進めるため、JA女性大学や1支店1協同活動を展開することで、地域のパワーを生み出しJAのパワーに転換しています。

鈴木道也 組合長

「女性の目で見ると、“素敵だな”と思えるJAに」
女性パワーを取り入れるため、
女性理事を積極的に登用しているんです

女性理事が各事業の会議などに出席。
女性ならではの目線で、
積極的にアドバイスをもらっています

4人の女性理事は、全員が地区選出。地区の組合員の要望を聞き、事業に生かすという、通常の理事業務に加え、信用・共済・営農・経済の各事業の会議などに、アドバイザーとして出席しています。

女性理事のアドバイスでここが変わった!



金融部 支店巡回

接客時の
笑顔は完璧ね

女性理事が直接、客として支店に出向いて、窓口でのやりとりや、支店の美化などを厳しくチェック。その結果、店舗の商品ディスプレイがきれいに。



共済部 スマイルサポーター
ロールプレイング大会の審査員

分かりやすい
説明ね

職員が共済商品の特長の伝達など、専門的な項目を審査するのに対し、女性理事は、身だしなみや接客時の表情、商品説明が分かりやすいかなど、生活者の目線で審査。



営農生活部 商品アドバイザー

帽子のつばは
もう少し
広い方が
いいですね

JAの開発した商品などを、女性理事たちがモニターとして試用。家庭での使い勝手などを主婦の目線で審査し、よりよい商品へと改善。

JAは地域に密着しているからこそ、
JAファンづくりが大切。女子大学やあぐりスクール、
1支店1協同活動などに積極的に取り組んでいます

JAなんすん女子大学

若い女性が集う5つのポイント

Point 1 若い女性の声を生かして、
講座内容を検討

開校に向けて、若手女性職員に興味や関心をたずねるアンケートを実施。結果をもとに、JAお試しセミナーを開催したところ、普段あまりJAと接点のない多くの女性が集結。彼女たちの声を元に、女子大学のカリキュラムを作った。



Point 2 募集チラシにひと工夫して、
若い世代にアピール

若い女性が手に取りやすいよう、募集チラシのデザインをプロに依頼。さらに、おしゃれなカフェなど、若い女性が集まる場所にチラシをおくことで、定員を上回る応募が。



Point 3 ブロッコリーを
きっかけに、家庭訪問

入学式でブロッコリーの苗と肥料を配布。信用担当者が栽培指導のために受講生の家を訪ねることで、JAとの接点を生む。



順調に育っていますね

Point 4 受講生の口コミで
事業の魅力PR

旅行や共済などのJA事業を、講座の中に取り入れて、さりげなくPR。若い人は、いいと思ったらすぐに周りの人に広めてくれるので、思わぬ波及効果も。



Point 5 リーダーに
狙いを定めて関係づくり

テレビの取材には、受講生のリーダーを推薦。出演を通じて、JAをより身近に感じてもらうことで、関係を強化する。



卒業生
32人の
うち6割が

「JAなんすん
女子大学院」
に進学予定!

女性部とほぼ同じ会費を徴収し、大学院卒業後の女性部加入をめざす。

教えて、北川先生



JA女性大学が 全国に広がるワケ

JA女性大学は、第26回JA全国大会決議でも、「JAの場づくり」として位置づけられています。すでに全国のJAのうち3割が取り組み、1割が今後取り組もうとしています。女性大学は、若い女性に「JAがおじいちゃんだけのものじゃない」ことを知って

もらう初めの一歩です。講座に参加する度に仲間ができ、JAへの壁も低くなります。この中から地域のリーダーが生まれてくるかも知れません。

また、JA女性大学は職員の育成の場でもあります。「自らが企画し、他部署と連携する」というJA内部での作業に加え、「組合員や地域住民と接点を持ち、JAの魅力を伝える」という複合的な能力も求められ、試行錯誤しながらJA職員は成長していきます。

*JA全中調べ

JAの概要 JAなんすん

静岡県の東部、沼津市など2市2町を管内に持つ。女性参画の状況は、正組合員27.1%、総代12.5%、役員4人。主な農産物は、深みのある味が特徴の「ぬまづ茶」や、管内南部の西浦地区を中心に栽培が盛んな「寿太郎みかん」など。平成23年度から、「1支店1協同活動」として、JAファンづくりを行っている。平成25年3月に創立20周年を迎えた。

地域のパワーを
取り込んで
そば店オープン **五竜庵**

「1支店1協同活動」の一環でそば店「五竜庵」をオープンし、耕作放棄地再生に向けて取り組む「あしたか山麓裾野そば」を提供している。

幟(のぼり)の絵や書は、地元の高校生に依頼。ソバ打ちから調理、接客を女性部スタッフ11人が担当し、地域の活性化をめざす。



“女性らしさ”を随所に生かして 直売所やJAで、女性が活躍中!

JAおちいまぱり [愛媛県]
直売所を核に、地域の活性化に成功したJAおちいまぱり。女性の持つ“きめ細やかな気配り”で幅広い世代がJAを利用するようになりました。

農産物直売所 さいさいきて屋

売り上げランキングの上位は、
常に女性が独占!



さいさいきて屋 直販開発室 西坂文秀室長

さいさいきて屋の出荷会員組織「彩菜倶楽部」のメンバーは約1200人。そのうち、51%が女性です。出荷者の売り上げランキングでも、常に上位を占めるのは女性。その秘けつは、やっぱり女性ならではの気配りですね。

農産物を店頭で並べるときに料理のレシピを添えたり、鉢花に風船を挿して、リボンで結んでラッピングしたりしているのは、女性の出荷者です。

袋詰めや、バーコード貼りなどの細かい作業も、女性の方が仕事がいねい。中には、「そうめん瓜」や中国野菜、ハーブなど、珍しい野菜のつくり方を研究し、出荷することで、売上を伸ばしている方もいますよ。

地域

おしゃれなカフェや
農業体験スクールで、
子育て世代が集まる場所に

「さいさいきて屋」では、平成19年に、直売所に併設する形で、カフェ「SAISAICAFE」をオープン。女性が店長となり、今治産の果物をふんだんに使った季節のタルトなど、品ぞろえを充実させて、20代の女性やその子どもを呼び込みました。

また、子どもを対象にした農業体験スクール「saisaiKIDS倶楽部」なども開設しています。これらの取り組みで、小さな子どもからお年寄りまで、幅広い世代に親しまれる直売所になりました。

SAISAICAFE



地場産農産物を使用したジャムやスイーツが幅広い年代に人気

saisaiKIDS倶楽部



女性 組合員

直売所の 売り上げNo.1!

丹下洋恵さんのちょっとした工夫

10年以上前に直売所への出荷を始めた丹下さん。消費者が完熟具合を確認できるようにトウモロコシの葉を折り曲げて包装したり、他の出荷者と差別化を図るために、キュウリの珍しいレシピをつけていたりしています。「たくさん売れたり、おいしいって消費者の声が聞こえると、うれしいですね」と語る丹下さん。「売上1位は、1人の力じゃない。女性出荷者みんなで情報交換しながら、切磋琢磨した結果です。これからも刺激しあいながら、頑張っていきたいです」。



“気配り力”は、JAでも生かされています!

職場 生活福祉部



きめ細やかな女性の特性を生かして職員も活躍
生活福祉課 課長 菊川美和さん

「女性の役員や幹部職員への就任は女性参画が花開く一歩」。JAおちいまぱりは、女性職員の育成や幹部への登用をすすめていて、女性のライン職は11人(8.3%)と全国平均の6.0%を上回っています。

また幹部育成のため、全国段階で開講されている「JA経営マスターコース」に継続して女性職員を送り出しています。菊川さんも、女性職員が活躍できる場を切り開いてきた先輩でもある、芥川享子監事に背中を押される形で受講し、様々な知識を身につけることができました。

「本店課長の女性登用は10年ぶりですが、『基本的にJAという組織が好き』という気持ちを原動力に、気負わず前向きに仕事に取り組んでいます。今の目標は『風通しのよい職場にすること』と語る菊川さん。

生活福祉課は、パートや登録のヘルパーも合わせて112人もの職員を抱える大所帯です。菊川さんは、職種やキャリアの異なる職員が、同じ目標に向かって仕事に取り組める環境にするために、一人ひとりと面談を実施。

「課題を共有して取り組むことで、職場の風通しがよくなると確信しています。強引に話を進めて、気がつくともつて来ないリーダーではだめ。一人だけの力では、限界もある」と話します。

「押しついたり引いたり周囲の雰囲気を読むのは女性の得意分野」と女性ならではの視点も大切にしています。

様々な経験を通じて 若手職員が成長

平成24年8月、女性職員7人が「TEAM 農強元気人」に就任。県内外に向き、消費者にJAおちいまぱりの農畜産物の魅力をPRしている。



女性部担当者や金融、営農など他部署の若手女性職員が企画から運営まで担当女子大学「おちいま〜じゅ」も好評だ。



教えて、北川先生



女性視点で 売り上げアップ!

JAにおける課長以上の女性管理職比率は、*6.0%。女性役員や組合員の要望に応える職員側の女性管理職が少ないままではいけません。出産や育児でキャリアを積めない時期もありますが、チャンスを与え、育てる環境は必要です!すでに、民間企業は一歩先を行っています。

例えば日産自動車では、車を買う際に主導権を握る女性に訴えるため、平成16年から新車の

開発プロジェクトに女性社員が参画。また組織のリーダーとなる女性社員の育成を経営戦略のひとつにしています。24年には同社が発売した小型車「ノート」の、商品企画責任者に女性を抜擢。女性ユーザーの視点を取り入れたことで、発売から7カ月で販売台数10万台を突破しました。



*JA全中調べ (民間企業では6.8% [平成23年度雇用均等法基本調査])

JAの概要 JAおちいまぱり

愛媛県の北東部、しまなみ海道を望む今治市と上島町を管内に持つ。女性参画の状況は、正組合員30.5%、総代21.5%、役員3人。「あったか〜い、心のおつきあい。」を経営理念に、「瀬戸の晴れ姫」や「温州みかん」などのかんきつや、キュウリをはじめ、さまざまな野菜を栽培。ジャンボシトウ「甘とう美人」やサトイモ「伊予美人」に力を入れる。

地域座談会では
活発な議論が

女性理事が座談会に出ると、その力量をみるためか、男性組合員から資材や市況について、意見などを求められることがあります。一つ一つ勉強しながら答えることで信頼関係も生まれ、活発な地域座談会になりました。

総代会が
和やかに

女性総代が増えたことで、男性総代も女性の視線を意識。総代会が和やかな雰囲気に。

役員と組合員の
交流が深まる



JA祭などJAのイベントでは、女性理事が女性部と一緒に運営を手伝っています。理事会などで女性理事からその話を聞き、男性役員も、法被を着てもちつきをするなど協力。その結果、馴染みのなかった地区内の男性役員と女性部員との接点ができ、交流が深まりました。

JA運営への参加
意識を高めています。

女性総代と女性部員で、「元気なJAづくり学習会」を開催し、総代会資料の見方や、TPPについてなどテーマを決めて学んでいます。また時には、総代など女性の参画を増やす方法について討議することも。

“女性のネットワーク”で
ちょこっと 変わるの積み重ね

JAみどりの
【宮城県】



女性部会長 菅原都さん 理事 佐々木みさ子さん 浦谷支部支部長 木村和枝さん

JAと女性組織のパートナーシップを強化し、女性の声を事業や活動に生かしているJAみどりの。子育て支援に取り組むことでJAと若い世代との接点をつくるなど、JAに変化をもたらしています。

東日本大震災では
炊き出しで地域へ貢献



「女性部でとにかく食べるものを作ってください」とJAから頼まれたので、震災発生直後から炊き出しに協力しました。助けあい組織などでも弁当づくりをしていたり、日ごろからそれぞれの部員が、直売所向けに加工品などを作っていたため、スムーズに食事を提供することができたんです。農家なので米はもちろん、梅干しや漬物、野菜などをみんなで出しあいました。



子育て支援を通じて
若い人が来るJAに

「PIKAPIKAママくらぶ」という、子育て支援活動を始めました。きっかけは「他所から来たお嫁さんの仲間づくりがしたい」という、女性部員の声。支店の一室にマットを敷いて、子育ての不安や悩みを相互に話し合える場を提供しています。



女性が使い
やすい支店に

女性の要望をもとに、支店などのトイレを水洗や洋式に変えてもらったり、遊休施設を集会場として整備してもらいました。そのおかげで、女性が立ち寄りやすくなりました。

もっとJAをよくしたい！
女性部と女性理事の二人三脚

座談会

佐々木さん 女性部との出会いは、若妻会の立ち上げから。平成17年、地域にそれまでいらした理事が定年で退任したため、当時部長だった私が理事になったんです。

菅原さん 佐々木さんには3期8年もの間、理事を務めてもらっている上、女性部の小さな勉強会や会合にも来てくれるので、JAを身近に感じられるようになり、私たちが発言しやすくなりました。

木村さん PIKAPIKAママくらぶも佐々木さんはサポーターと一緒に支

えてくれています。取り組み始めて4年。若い人が、JAに関心をもつきっかけにもなったり、多くの仲間の輪が広がったりしていけばと思います。

佐々木さん 女性部の皆さんと一緒に活動することで、さまざまな情報を教えてもらったり、意見もいただきます。菅原さんや木村さんなど力強い味方が大きな支えです。

菅原さん 女性参画にも、女性部とJAは二人三脚で取り組みました。一昨年、外枠で設置していた女性総代の枠を外し

ました。実際男性の総代数が減ることになったのですが、これまでの活動が認められ、実現できました。

佐々木さん やっぱJAは組合員や地域の方に支えられている組織です。皆さんの幸せを考え、よりよいJAとなるように頑張りたいですね。



さらに、

フレッシュミズ
メンバーとしても期待

「PIKAPIKAママくらぶ」の参加者にフレッシュミズへのグループ登録をお願いし、フレッシュミズメンバーが増加。親子よい食クッキングなどの活動も予定している。



お母さんが布絵本を作っている間、子どもは託児スペースへ



完成した布絵本

「PIKAPIKAママくらぶ」とは

浦谷支店管内に住む、子育て中の女性を対象に、「ママ友」づくりの場として、平成22年度から始まった取り組み。子育てサポーターの研修を受けた、女性部員や幼稚園教諭経験者など8人が11組の親子を支えている。受講中は、母親が講座に集中できるよう、室内に託児スペースを設け、サポーターが子どもたちのお世話を担当。講座の最後のおやつは、女性部員手作りのデザート。2カ月に1回の開催で米粉料理や手芸などに取り組む。

教えて！
北川先生

JAグループが
めざす姿になるために

「女性は小さなことばかりこだわるから困る」と男性役職員の言葉をよく耳にします。しかし、女性の視点を生かすということは、その小さな意見をどれだけ「事業や活動に生かして変わっていくことができるか」にかかっています。

男性からみれば些細なことでも、意見を反映し、少しずつ取り入れていくことで、JA全体も着実に変わっていくものです。全国の

事例をみても、次のような変化があげられています。

- 葬祭センターが建設された
- 女性職員の制服がかわくなった
- 直売所に調理場が設置された
- あぐりスクールや女性大学が開校された
- 親子料理教室が開講された、など。

日々の献立づくりから、介護や子育て、家計のやりくりまで。生活の実感から生まれる要望は、まさにJA全国大会決議で示したJAグループがめざす姿(10年後)「総合事業を通じて地域のライフラインの一翼を担い、協同の力で豊かで暮らしやすい地域社会の実現に貢献している姿」につながると思います。

JAの概要
JAみどりの

宮城県の中央部に位置し、大崎市の一部と、浦谷町、美里町の1市2町を管内に持つ。女性参画の状況は、正組合員34.4%、総代10.8%、役員2人。「ササニシキ」や「ひとめぼれ」発祥の地として知られる大崎耕土を有し、水田を中心に、園芸・畜産を組み合わせた複合経営が主体。「仙台小ねぎ」や「ホウレンソウ」、「水菜」などの施設園芸が盛ん。